

施策評価シート (平成31年度の振り返り、総括)

作成日 令和2年 04月 06日

施策 No.	1	施策名	こどもの元気な成長プロジェクト
主管課名	学校教育課	電話番号	0285-83-8181
関係課名	学校教育課 生涯学習課 スポーツ振興課		

施策の対象	市内の義務教育課程の児童生徒									
対象指標名	単位	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	31年度見込	
児童生徒数	人	7,057	6,997	6,991	6,980	6,858	6,798	6,761	6,755	

施策の意図	・ 確かな学力の育成など教育環境の充実により、たくましい「もおかつ子」を育てる。
-------	--

成果指標設定の考え方及び指標の把握方法(算定式など)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「全国学力・学習状況調査」については、児童・生徒の学力低下の批判を受け、平成19年度に全員調査として再開する。教科合計平均正答率を栃木県と真岡市とを比較した平均正答率との差を使う。 ・ 英語教育の充実については、とちぎっ子学習状況調査における質問紙調査の結果を使う。 ・ スポーツ庁が実施する「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果は、新体力テスト8種目の合計得点の平均値を全国と真岡市との差を使う。 ・ 「高校生の海外留学支援」は、海外留学の費用の一部を補助した人数とする。
----------------------------	--

成果指標名	単位	25年度実績	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	31年度基本計画目標値
全国学力・学習状況調査で栃木県教科合計平均正答率との差(小学校6年、国語・算数)	ポイント			+0.6	-2.85	+0.50	-1.75	-5.0	-0.4
全国学力・学習状況調査で栃木県教科合計平均正答率との差(中学校3年、国語・数学)	ポイント			-1.0	+0.68	-1.75	± 0	+2.0	-0.2
とちぎっ子学習状況調査中学2年生質問結果「英語の学習は好きですか」	%			73.7	65.7	63.9	59.5	65.4	80.0
とちぎっ子学習状況調査中学2年生質問結果「英語の授業で、自分の考えや気持ちなどを積極的に表現する」	%			78.1	76.8	74.1	79.6	81.4	80.0
新体力・運動能力調査結果との差小5男子(80点満点)	ポイント			-1.65	-0.67	-2.24	-2.13	-2.61	
新体力・運動能力調査結果との差小5女子(80点満点)	ポイント			-1.21	-0.91	-0.58	-1.04	-0.43	
新体力・運動能力調査結果との差中2男子(80点満点)	ポイント			-1.28	-1.54	-1.95	-0.45	-0.21	
新体力・運動能力調査結果との差中2女子(80点満点)	ポイント			+0.30	-0.36	-1.15	+0.25	+1.86	
高校生の海外留学支援	人						6	9	

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	
-------------------------	--

1. 施策の成果水準とその背景（近隣他市や以前との比較、特徴、その要因と考えられること）

(1) 施策成果の時系列比較（過去3年間の比較）

・全国学力・学習状況調査は、小学6年生が2教科（国語、算数）、中学3年生が2教科（国語、数学）の学力と、学習状況調査を把握する質問紙調査を4月に実施している。

栃木県の平均正答率と市との結果を比較すると、小学6年生は、平成29年度+0.5ポイント、平成30年度-1.75ポイント、令和元年度-5.0ポイントである。中学3年生は、平成29年度-1.75ポイント、平成30年度±0ポイント、令和元年度+2.0ポイントである。

・「英語の学習が好き」と答えた中学2年生の割合は、とちぎっ子学習状況調査の意識調査において、平成29年度は63.9%、平成30年度は59.5%、令和元年度は65.4%で、前年より5.9ポイント上昇している。

英語の授業で、自分の考えや気持ちなどを積極的に相手に伝えようとしていると答えた中学2年生の割合は、平成29年度は74.1%、平成30年度は79.6%、令和元年度は81.4%で、前年より1.8ポイント上昇している。

・全国体力・運動能力・運動習慣等調査の結果では、8種目合計の平均値を全国と真岡市で比較すると、中学2年生女子で全国の平均を上回っている。小学5年生男子では、全国との差がやや広がったが、小学5年女子・中学2年男子では、全国平均との差が縮まっている。

・高校生の海外留学支援については、令和元年度は、短期9人を支援した。

(2) 近隣他市との比較（令和元年度全国学力・学習状況調査の質問紙から）

『算数・数学の授業の内容が「よく分かる」と答えた児童生徒の割合』

小学校6年生 算数：真岡市83.2%、栃木県84.9%、全国83.5%

中学校3年生 数学：真岡市79.7%、栃木県77.6%、全国73.9%

小学校6年生は、栃木県より1.7ポイント下回り、全国より0.3ポイント下回っている。

中学校3年生は、栃木県より2.1ポイント上回り、全国より5.8ポイント上回っている。

『授業では、課題の解決に向けて「自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」と答えた児童生徒の割合』

小学校6年生 算数：真岡市78.6%、栃木県81.4%、全国77.7%

中学校3年生 数学：真岡市82.3%、栃木県79.9%、全国74.8%

小学校6年生は、栃木県より2.8ポイント下回り、全国より0.9ポイント上回っている。

中学校3年生は、栃木県より2.4ポイント上回り、全国より7.5ポイント上回っている。

高校生の海外留学支援について、県内13他市に確認した結果、本市独自の施策であり、他市では同様の支援は行っていない。

(3) 住民期待水準との比較

市民意向調査において、今後力を入れてほしい施策のうち「学校教育の充実」は、平成29年度：26.6%、平成30年度：27.7%、令和元年度：27.4%で、前年度より0.3ポイント減少した。

31年度の
評価結果

2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み（事務事業）の総括

・学力を県内トップレベルへ引き上げるために、平成29年度より、本市独自に年2回実施している「真岡市総合学力調査」の結果を国、県の学力結果と併せて分析している。その結果を基に、指導主事が「学力向上支援訪問」を行い、学習指導や授業改善に対する指導助言等を行ってきた。また、「教職2～4年目教員支援事業」等では、指導主事が随時学校を問い、若手教員を対象に、授業改善に対する助言を個別に行ってきた。

・ICT機器を活用した学校教育の推進については、令和元年度は市内全教師用タブレットと指導用デジタル教科書を導入するとともに、市内全小中学校に、一学級分程度の児童生徒用タブレットを整備した。

ICT機器を活用した学習活動の育成を図るため、ICTモデル校の真岡東小と真岡西中で、市内全教師を対象とした公開授業を実施するとともに、宇都宮大学教育学部の准教授の指導を受けながら、ICT活用方法を研究した。

ICT支援員を市内全小中学校に配置し、電子黒板及びタブレットを使った授業の支援を行った。

・英語教育の充実については、グローバル化が進展する中、英語によるコミュニケーションの力を小学校低学年から養うため、英語の授業内容の充実を図った。

令和2年度からの新学習指導要領全面实施により、小学校5、6年生の外国語活動が教科化となるとともに、小学校3、4年生にも外国語活動が導入される。これに対応するため、平成30年度の授業が円滑に実施できるよう年間指導計画を整備した。また、平成30年度は、小学校の英語指導助手（AET）を4名増員し、小・中学校合わせて14名とし、小学校に配置する外国語活動支援員（JTE）を4名から2名増員し、6名とした。これにより、すべての授業に、AET又はJTEを配置する体制を整えた。令和元年度には、英語指導助手（AET）を2名増員し、小・中学校合わせて16名として、さらなる充実を図った。

・子どもの体力アッププログラムにおいては、平成30年度に策定した「体力向上プログラム」に基づき、各学校で実施した。令和元年度は、「体力向上プログラム」の第2版を策定し、さらなる取組を行った。

・次世代リーダー育成については、平成30年度に「真岡市高校生等海外留学支援事業」を創設し、高校生6名の海外留学を支援し、令和元年度は、高校生9名の海外留学を支援した。

・『真岡市高校生等海外留学支援事業補助金交付要綱』
【対象】主に本市に住所を有する高等学校に通学する者
【補助額】9日以上1月未満、3万円補助、1か月以上 6万円補助

・令和元年度

真岡市内の高校生が通学する県内外の高等学校に募集要項を配布した。

市ホームページ、ウィクリーで周知を図った。

中学生リーダー研修開示に、中学生と留学生の意見交換会を行った。

『真岡っ子をみんな育てよう事業』講演会1部で中学体験を踏まえた高校生による体験発表会を実施した。

（来場者にアンケート調査を実施した。）

31年度の
評価結果

3. 施策の課題認識と改革改善の方向

・学力を県内トップレベルへ引き上げるためには、日々「分かる・できる・定着する授業」を実践していくことが重要である。そのため、「教職2～4年目教員支援事業」「学力向上指導員派遣事業」「魅力ある学校づくり事業」等での学校訪問を通して、授業改善のための指導助言をより充実させ、児童生徒により質の高い授業を提供することで、学力の向上を目指していく。また、「真岡市総合学力調査」の事業継続により、経年変化を分析はもちろんのこと、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う臨時休校で不安視されている「今年度の学習内容の定着」についても分析を行う。その結果のフォローアップを重視することで、「確かな学力の定着」を図り学力の向上を目指していく。

・ICTを活用した学校教育の推進については、教員のスキル向上を図るため、ICT導入モデル校での実践を市内全校に広めるとともに、新たにICT教育推進校とICT導入重点校を指定していく。特に、1人1台端末を効果的に活用した「個別最適化された学習」や主体的・対話的で深い学びを実現するための手法を研究していくため、外部有識者を招聘した教員研修等の実施や、ICT支援員との連携の強化を図っていく。

1人1台端末の活用は、児童生徒個々の興味関心や習熟度などの実態に合わせた学習を実現していく上で有効であり、知識を生かし、自ら考え・判断していく資質・能力を育成することができ、学力の向上が期待できる。

また、文具のように日常的に端末を利用できる環境が実現するため、情報モラル教育を重視し、児童生徒が安全に適切にICT機器を活用していく能力を育成していく。

・英語教育の充実については、令和2年度からの新学習指導要領に定める英語授業時数が、小学校5、6年生で年間70時間、3、4年生で35時間となった。大幅な授業時数の増加となったが、本市教育委員会では、指導環境を整備するため、令和元年度から先行して実施している。今後も英語指導助手(AET)と外国語活動支援員(JTE)及びICT機器など複合的に活用し、英語教育を充実させていく。

・子どもの体力アッププログラムにおいては、各校の実践事例を追加した「体力向上プログラム」(第2版)に基づき、各学校は、8つの視点を参考に、体力の向上に向けた取組を実践していく。

教育委員会は、引き続き各学校の取組を支援する。また、地域人材の活用については、すでに実施している部活動の外部指導員の配置に加え、令和元年度からは、部活動指導員を3名配置しているが、活用についてさらに調査・研究する。

・全国・運動能力、運動習慣等調査の結果から、体力合計点と相関関係のある項目を分析し、小中学校の相違点を検証し資料を提供する。その結果を踏まえ、各学校で体力向上に取り組む。

・次世代リーダー育成については、グローバル化が進展する中、海外留学する高校生を支援していく。

31年度の
評価結果

補足事項

【1. 施策の成果水準とその背景 (1) 施策成果の時系列比較の補足説明】

全国体力・運動能力、運動習慣等調査は、小学5年生と中学2年生が8種目（握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ボール投げ）を実施し、1種目10点満点の合計で得点を出している。合計得点をもとに5段階評価とし、優れている方からA、B、C、D、Eに判定している。

小学5年生の総合評価は、総合評価A = 合計得点65以上、評価B = 合計64～58、評価C = 合計57～50、評価D = 合計49～42、評価E = 41以下とする。

A = 真岡男子 = 5.9%、女子 = 12.6%、栃木男子 = 9.3%、女子 = 15.3%、全国男子 = 11.7%、女子 = 16.0%
B = 真岡男子 = 16.9%、女子 = 26.8%、栃木男子 = 21.7%、女子 = 27.4%、全国男子 = 24.1%、女子 = 27.0%
C = 真岡男子 = 38.6%、女子 = 35.3%、栃木男子 = 33.7%、女子 = 33.5%、全国男子 = 33.0%、女子 = 33.2%
D = 真岡男子 = 24.6%、女子 = 19.2%、栃木男子 = 23.1%、女子 = 17.5%、全国男子 = 21.3%、女子 = 17.9%
E = 真岡男子 = 13.9%、女子 = 6.1%、栃木男子 = 12.3%、女子 = 6.3%、全国男子 = 9.9%、女子 = 5.8%

中学2年生の総合評価は、総合評価A = 合計得点57以上、評価B = 合計56～47、評価C = 合計46～37、評価D = 合計36～27、評価E = 26以下とする。

A = 真岡男子 = 7.0%、女子 = 38.1%、栃木男子 = 6.6%、女子 = 32.5%、全国男子 = 7.6%、女子 = 31.4%
B = 真岡男子 = 22.9%、女子 = 34.9%、栃木男子 = 24.5%、女子 = 32.7%、全国男子 = 25.1%、女子 = 32.3%
C = 真岡男子 = 39.7%、女子 = 17.6%、栃木男子 = 38.2%、女子 = 24.5%、全国男子 = 37.1%、女子 = 24.7%
D = 真岡男子 = 24.1%、女子 = 6.9%、栃木男子 = 23.3%、女子 = 8.6%、全国男子 = 22.7%、女子 = 9.7%
E = 真岡男子 = 6.4%、女子 = 2.5%、栃木男子 = 7.5%、女子 = 1.7%、全国男子 = 7.4%、女子 = 1.9%

【増補版に関連する事項】

・学力を県内トップレベルへ引上げる取組

教育委員会は、国及び栃木県の学力調査に加え、平成29年度から年2回、本市独自の「真岡市総合学力調査」を実施しており、学力向上のための取組に対して、よりきめ細やかな検証と改善を行っている。

さらに、ICT機器を導入するとともに、指導主事による学力向上及び授業改善のための学校訪問をより充実させながら、栃木県教育委員会の各種事業との連携を密にし、学力向上に向けた各学校の取り組みを支援する。

・ICT（情報通信技術）を活用した学校教育の推進

全教師分の教師用タブレット及びデジタル教科書を導入し、電子黒板を活用した授業を展開。

児童生徒用タブレット端末については、令和2年4月に、国の新型コロナウイルス感染症緊急経済対策において、令和5年度までの児童生徒1人1台の端末整備スケジュールの加速化などが新たに示されましたので、この整備を前倒しで進め、令和2年度内には全児童生徒に対し、1人1台のタブレットを整備予定である。

・小学校低学年での英語授業など英語教育の充実

小学校における外国語活動の教科化への対応を推進する。教員の資質向上として、学級担任全員を対象とした外国語研修会を3年間かけて実施していく。さらに、平成30年度から、14小学校を7校ずつに分け、2年間かけて学級担任の指導力向上を図るため、元中学校英語教諭を「英語指導力向上専門員」として巡回指導し、令和元年度からは14小学校の巡回指導をしている。

・子どもの体力アッププログラム（地域との連携）

各学校では、子ども達の体力の低下傾向を改善するために工夫・改善を図っています。真岡中学校では、水泳と柔道の授業に学校支援ボランティアを導入し、地域の人材と連携しています。